

# ニュージーランド準備銀行は政策金利を据え置き

- ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は政策金利を1.75%で据え置き、中立的な政策姿勢を維持する方針を示す。
- 足元で石油・食品価格の上昇からインフレが加速。RBNZは2019年にはインフレ率が物価目標に収れんと予想。
- 緩和的金融政策や力強い人口増加、堅調な個人消費・建設活動に支えられ、RBNZは前向きな景気見通しを維持。
- 金利差縮小などからNZドル相場は対米ドルで緩やかに下落傾向。乳製品価格の上昇がNZドルの下支え要因に。

## NZ準備銀行は政策金利の据え置きを決定

ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は5月11日の政策決定理事会において、大方の市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置く決定を下しました(図1)。

ウィーラー総裁は声明文において、「2月の四半期金融政策報告の公表以降の経済動向は総合的に見て金融政策姿勢にとって中立的とみなされる」と述べ、中立的政策姿勢を維持する方針を示しました。

## 石油・食品価格の上昇によりインフレが加速

ニュージーランドの2017年1-3月期の消費者物価指数(CPI)は前年比2.2%と、2016年10-12月期の同1.3%から伸び率が大きく上昇しました。RBNZは足元のインフレ加速は主に石油・食品価格の上昇によるものとしており、これらの一時的な物価上昇要因が先行きのインフレの変動を高める可能性があるとの見方を示しました。

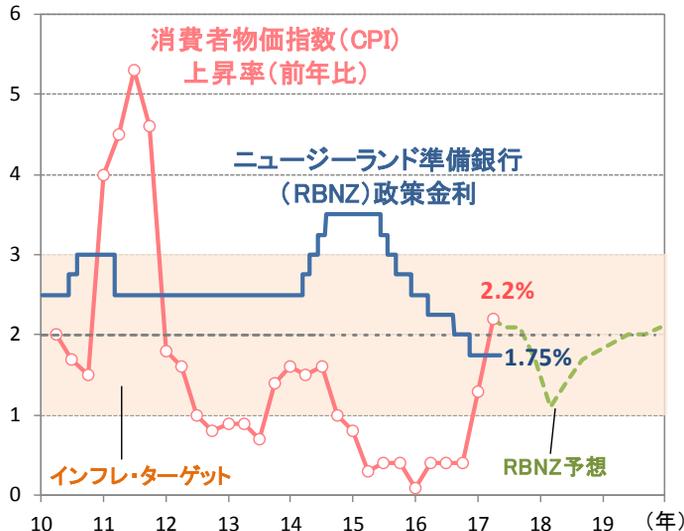
RBNZの最新の物価見通しでは、インフレ率は2018年1-3月期に前年比1.1%へ鈍化した後、2019年にはインフレ目標中央値の2%に収れんと予想されています。

一方、景気動向に関しては、2016年下半期に経済成長率が鈍化したものの、緩和的金融政策や力強い人口増加、堅調な個人消費・建設活動に支えられ、RBNZでは前向きな景気見通しを維持している模様です。

## 金利差縮小などの要因からNZドル安傾向が続く

今回の四半期金融政策報告で示されたRBNZの政策金利の見通しでは、2019年央頃までの政策金利の据え置きが見込まれています。足元のNZドル相場は、米国など海外との金利差の縮小などの要因から、米ドルに対して緩やかに下落する傾向が続いています。一方、4月以降、ニュージーランドの主要輸出品目である乳製品の国際市況が上昇傾向にあることは、交易条件の改善を通じてNZドル相場の下支え要因になると期待されます(図2)。

図1:ニュージーランドの政策金利とインフレ率 (%)



(出所)ニュージーランド準備銀行(RBNZ)、ニュージーランド統計局  
(期間)政策金利:2010年1月1日~2017年5月11日  
CPI:2010年1-3月~2017年1-3月

図2:NZドル相場と乳製品価格



(出所)ブルームバーグ、Global Dairy Trade  
(期間)2016年1月1日~2017年5月10日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。